

目次	1	GPPN Conference, Tokyo 2013 を終えて [小川琴子]
	2	GPPN Conference, Tokyo 2013@Hongo Campus, the University of Tokyo
	3	学生インタビュー [畑佐 憲さん]
	4	ホーチミン国家政治行政学院訪問と公共政策大学院の国際化 [芳川恒志] / トピックス

## GPPN Conference, Tokyo 2013 を終えて

小川琴子 国際チームプログラムマネジャー

2013年12月6日～8日の3日間、世界公共政策ネットワークの年次会議 Global Public Policy Network (GPPN) Conference, Tokyo 2013 が開催されました。この年次会議はGPPN参加大学が持ち回りで主催しており、前年の理事会で、2013年の会議はこれまでの交流実績が評価されたGraSPPが主催することが決まっていました。

GPPN会議はExecutive Meeting、Faculty Conference、Student Conferenceと3つの会議が並行して行われます。Executive Meetingには、GPPN Networkに正式加盟しているコロンビア大学国際公共政策大学院(SIPA)、シンガポール国立大学リー・クアンユー公共政策大学院(LKY-SPP)、パリ政治学院(Sciences Po)、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス(LSE)、ヘルティエール・スクール・オブ・ガバナンス(HSoG)、ジェトゥリオ・ヴァルガス財団サンパウロ・ビジネススクール(FGV-EAESP)の7校から院長等代表者が出席し、GPPNの運営方針や学術交流の在り方、公共政策学教育の今後の可能性等について活発な意見が交わされました。Faculty Conferenceでは、この7校に加え、正式に招待されたカナダのプリティッシュコロンビア大学、ハンガリーの中央ヨーロッパ大学、オーストラリア国立大学の代表者が参加し、"Public Policy for 2020: Medium-Term Agenda with a Better Vision" というテーマで、公共政策の中長期的な課題や打開策について、政治・経済的視点から4名の発表者がプレゼンテーションし、その後参加者全員による議論が行われました。また、昼食会に合わせて開かれたGraSPPスタッフによる茶道体験や、東京大学の江川理事と井上国際部長を招いての交流夕食会など、各種イベントを通じて教職員の交流をさらに深めることができました。

Student conferenceは12月7日、8日にわたって開催されました。

日本銀行の黒田東彦総裁を講師に招いた公共政策セミナーに続き、GPPN加盟校の院長が参加するDeans' Round Tableというセッションでは"Vision for 2020: What needs to be done today?"のテーマに沿ったパネルディスカッションが行われました。その後、専門家を迎えたPractitioners' Round Tableのセッションでは、西沢利郎教授と飯田敬輔教授が"Trans-Pacific Partnership"というテーマで、加納雄大教授が"Japan's New National Security Policy in the Changing Regional and Global Security Environment"というテーマで、田中伸男教授と政策研究大学院大学アカデミックフェロー黒川清氏は"Fukushima: Post Disaster Management"というテーマで、かなり踏み込んだ内容まで語りました。質疑応答では、政治、経済、環境等、様々な分野を専攻する学生からの質問で議論はますます熱を帯び、白熱した議論はそのままレセプションに持ち越されるほどで、大盛況のうちに1日目の幕が下りました。Student Conference 2日目は、計32ヶ国172名の応募者から事前審査を通過した75名が、経済、国際関係、政治の3分野に分かれてプレゼンテーションやディスカッションを行いました。その内容について、教員の評価と学生の投票により審査を行い、一番優れた論文にBest Paper Award、一番優れたプレゼンテーションにBest Presentation Awardが授与されました。

参加者からは、本郷キャンパスの美しさ、会議の質の高さ、熟達してスムーズな会議運営、発表の完成度の高さや学生の熱意などについて、高く評価して戴きました。GPPN Conferenceを主催すると決まったときは、ただでさえ日常業務に忙殺されている国際チームでこのような大規模な会議を運営するのは無理ではないか、と恐ろしさに身が震えました。しかし、プロジェクトの垣根を超えて協力してくださった教職員の方々と、優秀で熱意ある学生に支えられ、大成功に終わったことをほんとうに喜んでます。今回の会議に関わったすべての方々にこの場を借りて御礼申し上げます。このイベントを通し、東京大学公共政策大学院とパートナー大学との絆がより深まり、交流がさらに活発化していくことを願っています。



# GPPN Conference Tokyo 2013

@Hongo Campus, the University of Tokyo



### ——1年間休学しているそうですが、何をしていますか？

地元の荒川区でボランティア活動をしています。GraSPPで実務家出身の先生の授業を受けていて、実務経験がない自分に消化しきれない部分が多く、肌で理解したいと思ったのが理由です。荒川区子育て支援課が募集していた「学びサポートあらかわ」という学習支援の有償ボランティアに応募し、採用されました。「学びサポートあらかわ」は、小学5年生から中学3年生の学力の底上げが目的です。聞くとところによれば、今の小中学生の保護者の一部は、ちょうど校内暴力で荒れていた時代に生徒だった世代で、「自分だって高校入って卒業できて就職できたんだから、うちの子だって適当に入れるところに入れればいい」という姿勢だとか。このような保護者の啓発を含めた「キャリア教育」が大きな課題です。

「学びサポートあらかわ」で知り合った方が主催する活動を通じて感じたことですが、現代は物質的に貧しいのではなく、人とのつながりがないことも含めて精神的に貧しいのではないのでしょうか。日本の場合、みんな携帯は持っているし、学校に行ける。ものすごく見えにくい貧困だと思うんです。家庭が複雑、生活に余裕がないなどの理由で、親と(学童保育期以降の)子どもの関係がうまくいっていないのが一因ではないかと。都会は近所付き合いが希薄なので、子どもを預かるシステムもあまりない。そうすると、子どもはコンビニで夕食を買い、話す相手もなく家に閉じこもるしかない。余裕がない世帯は外の世界との接点がないんです。余裕がある人たちは、余裕があるからこそ外に目を向けて楽しいことがあるとわかるんです。

こういう問題は、行政で解決するにも限界があるので、ボランティアの出番だと思います。篤志家の方が、このような子どもたちの居場所として、空いている家屋を提供して下さることになりました。そこを拠点に、まずは夕食を提供することから始めようと考えています。食材の調達先はフードバンクなどを考えています。

若い人にも参加してもらいたいと思っています。年輩の方だと、自分の経験や昔の価値観ばかり語りがちで、子どもたちが心を開きにくい面があります。近所に住む若者が気軽に参加できる仕組みを作りたいと思っています。まずはその層を今から育てることを目的として、友達と一緒に、高校受験生を対象に「高校の推薦入試対策講座」を無償で実施しています。面接・討論と作文の指導を行っています。ふつうの塾だとここまで面倒は見ませんよね。推薦入試は門戸が狭く、受けようと思う子ども意識が高く優秀なので、いずれ僕たちの活動の協力者になってくれるかもしれない。超早期の青田買いかつ超長期的な種蒔き作業です。今年の入試で講座の成果が初めて出るので、どきどきしています。「無償」の二文字だけに惹かれる親御さんが多いのは痛し痒しですが(笑)、仲間や協力者が「やりがい」、「生きがい」だからと無償なのに手や力を貸してくれること、受講する生徒がやる気満々で目を輝かせて受講してくれることが喜びです。

僕はけっこうお節介で他人の世話を焼くのが好きなんです。いろんな人の話を聞くのも好きです。こういう人間が集まってコミュニティになります。こういう人間と一緒に活動して社会に働きかけていくのも一種の「公共政策」ではないでしょうか。



### ——就職活動はするんですか？

します!(笑) 両親には、基礎科目を自分でもう一度勉強したいので1年間休学すると言った了承をもらいました。実は両親には、休学の本当の理由がボランティアというのは内緒です。これを機にカミングアウトするつもりです。覆水盆に返らずだし、何とかなるでしょう。

外国語が活かせる職業に就くことを希望しています。外国語が大好きで、大学(慶應SFC)では英語、中国語、フランス語、ドイツ語と、履修科目の3割くらいを外国語が占めていました。2012年夏にドイツ学術交流会から奨学金をもらい、ドイツに短期留学しました。帰ってきて、荒川区にいらしたウィーンのお偉方の挨拶を通訳させてもらいました。また、アテネ・フランスに通い始めて、フランス語を磨き直しています。ドイツ語とフランス語に本腰を入れて取り組み始めたのは、慶應SFC時代に西安交通大学に留学して友人ができて、彼らと連絡を取り合うことになったからです。また、僕の母親は広東語をしゃべる中国人で、母親とは広東語で会話しています。広東語は福建語と並ぶ華僑の言葉で、オランダの中華街で広東語が通じたときには感激しました。中国では「中国人」という意識よりも、「上海人」、「香港人」、「北京人」という意識のほうが強いのではないかと思います。ひとつの国に多様性が共存しています。

(インタビュー・文責 編集担当)

# 学生インタビュー

第16回

Student Interview

## 畑佐 憲さん

公共管理コース2年(休学中)



# ホーチミン国家政治行政学院訪問と 公共政策大学院の国際化

芳川恒志 特任教授

2013年9月下旬、日下一正先生とベトナム・ハノイに出張した。ベトナム政府の研究教育機関であるホーチミン国家政治行政学院(HCMA)の招聘により、同学院が実施する将来の幹部育成のプログラムで、「戦後日本の経済政策、産業政策」を講義するためである。このプログラムは、本年より3年間にわたり政府幹部候補生約500名を6グループに分け、それぞれのグループ約80名に4ヶ月間研修を行うもので、その成果等を評価して将来の登用を行うというひじょうに重要なものだ。プログラムは2013年前半に始まり、今回は第2回であった。日本は、カリキュラムの一部(政策モジュール)のHCMAでの実施及び本邦研修を国際協力機構が支援し、これを人事院が全面的にサポートという形で関与している。

我々は2日間の講義を行った。事前にベトナム語に翻訳されたテキストと参考資料を渡したうえで、はじめに講義を行い、あらかじめ指定しておいたベトナムの現状を踏まえた課題(国営企業の民営化、投資誘致等)についてグループで議論し、その結論を発表して議論・講評するという形で進めた。聴講生は既に司法、公



安、エネルギー政策等多岐にわたる分野で相応の行政・政治経験がある組織幹部である。このため問題意識も極めて明確で、日本に関する知識も豊富で議論や質問も活発でその内容も的確かつ具体的であった。分野では、国営企業の民営化や裾野産業の育成に特に関心が高かった。

講義の前日、ハノイ近郊バクニン省を訪問した。同省チエン人民委員会委員長が今年前半のプログラム受講者で、温かい歓迎を受けた。同省の工業団地ではキヤノン等日系企業の工場を視察し、ダイナミックに成長するベトナム産業の現場を実感しただけでなく、外資誘致政策や進出企業の悩み等を聞き、これを講義で生かすことができた。もっとも、ここ最近ベトナムで目立つのが韓国企業である。韓国からの投資はベトナムの輸出にも大きな貢献をしている由であった。日本は、ASEANの主要国であるベトナムとは経済や外交関係上も既に緊密な関係を築いているが、研究・教育分野で今後さらに協力を深める余地があるように感じられた。特に、HCMAは同国の政治・行政分野や経済界に多くの人材を輩出しているだけでなく、ラオス等近隣諸国からも研修生を受け入れている。ベトナムやメコン流域地域がますますグローバル化するにあたり、公共政策大学院としての貢献や我々自身の国際化の余地があると感じた次第である。



## TOPICS トピックス

2013年10月19日、ホームカミングデー同窓会企画『復興シンポジウム2013 Public Policy for Who』を開催しました。森田朗初代GraSPP院長と外崎浩子宮城県議会議員の講演、ディスカッションと充実の内容でした。私たちGraSPP復興支援ネットワークは、同窓会の下部組織として、「復興の加速」と「未来の大震災への備え」を目的に、同窓生と現役生の有志で活動しています。震災から3年。新しい出発をする東北を応援するために、そして震災の教訓を日本全体で活かしていくために、特に政策面で貢献していきます。GraSPPのネットワークを活かし、地域住民の皆さんや県議、町長等のさまざまなアクターとも連携しながら、息長く取り組みたいと思います。

伊藤 聡 (GraSPP復興支援ネットワーク事務局代表、3期生)



現在の気仙沼港



この1年を振り返ると、さまざまな視点から、さまざまな課題について考えるための訓練とでもいうべき場にいることが多かったような気がします。地域の視点から、国際的な視点から、ビジネスの視点から、若者の視点から、自治、外交、エネルギー、現代社会、政治の問題など、異なる意見に耳を傾け、自分なりに咀嚼し、判断する環境と題材をこれでもかというくらい与えられました。大事な問題にたいする意見ほど、声を荒らげず、感情的にならずに他者に訴えるのは、難しいけれど大切だと思う今日この頃です。(編集担当)

NEWSLETTER [編集・発行] ... 東京大学公共政策大学院  
第35号  
GRADUATE SCHOOL OF PUBLIC POLICY  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

[発行日] ... 2014年2月3日  
[デザイン] ... 安孫子正浩(水蒸気図案室)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 tel 03-5841-1710 fax 03-5841-7877  
E-mail grasppn1@pp.u-tokyo.ac.jp <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp>